

皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は豊島区の巢鴨地蔵通商店街を紹介いたします。

メディア等で取り上げられることも多く、『おばあちゃんの原宿』と言われる巢鴨地蔵通商店街へ行ってみました。JR巢鴨駅を出て、道路を渡ってすぐの所にありますが、アーケードのある商店街ではないので、雨天は足を運びづらいかもしれません。

おばあちゃんの原宿と言われていますが、ゲートをくぐって商店街の中に入ると、意外といろいろな年代の人たちが散策していました(メディアの影響でしょうか)。塩大福発祥の店や大正時代から営業している蕎麦屋など古いお店が多く立ち並び、レトロな感じもしますが、中には若者向けのおしゃれなお店も増えてきているような印象でした。私もその塩大福発祥の店で、塩大福と団子を購入して食べましたが、甘すぎず素朴な懐かしい感じのする味で、美味しくいただきました。

食べ物の話になってしまいましたが、商店街の名前にもある、肝心のとげぬき地蔵尊・高岩寺も訪れ参拝もして、商店街の散策を終えてきました。

東日本営業本部(部長:高橋 鉄夫)



世界の拠点から
-From the base in the world-



北海道十勝のグルメといえば『豚丼』。今回は音更町にある人気店『豚丼のかしわ』さんへ行ってきました。

地元の方やクチコミサイト等でも評価の高いこちらのお店。いつもは行列に並ぶことが苦手ですが、どうしてもその味を確かめたくなりいざ訪問。日頃の行いが良いのでしょうか、当日はラッキーなことに空席があり、すぐに豚丼をオーダー、そして待ちに待った着井。

『かみこみ豚』という赤身に脂が差し込んだお肉がとても柔らかく、地元音更産の炭火の香ばしい香りで箸が止まらずあっという間に完食となりました。

今回は何も考えずに豚丼メニューのサイズ『中』をオーダーしてしまったことが悔やまれましたので、次の訪問時は『大』を必須条件としたいと思います。



札幌営業所(所長:清水 壮次郎)

以前、家の近くに色々なスーパーマーケットがあると書きましたが、今度は自宅から20分くらいのところ、あま市に食品特化型ドン・キホーテの1号店がオープンしたと聞き行ってみました。

名前はロビン・フッド。ニュースでの報道も多かったものの、そこまで街中ではないので混んでいても知れているだろうと思っていましたが、完全に甘かった。駐車場に止めるのに30分。やっとの事で止め、さあ行こうと思ったら外周に数百人の行列。そう、入場制限が掛かっていました。ちょっとだけ並びましたが、1時間以上かかりそうで今回は断念。ドンキは長崎屋などスーパーの業態も吸収しているのでノウハウは元々持っているし、名古屋地区もユニーやアピタと言った名古屋人なら知っているところもグループ会社です。

今後、全国展開で店舗拡大するとの事で、食の選択肢も増え楽しみになりますね。

中日本営業所(部長:藤谷 弘行)

今回は昼食によく行く博多の老舗うどん店『うどんの萬栄』をご紹介します。

店内には『博多うどん』の由来や歴史が紹介されております。そこには、博多うどんは今からおよそ800年前、聖一國師が宋(中国)から製粉技術を持ち帰ったことが始まりとされている、とそう書かれてあります。また、博多うどんの特徴である“やわらかい麺”についても、忙しい商人の町・博多ならではの「早く食べられるように」という文化が背景にあるとのこと。

普段何気なく食べているうどんにも、こうした歴史や地域文化が詰まっているので、ご興味頂けたら嬉しく思います。

今回はうどん定食(830円)をいただきましたが、うどんの麺は冷たい博多古うどん麺を選びました。喉越しの良い麺が絶妙で、とても美味しくいただきました。さらに、から揚げもセットになっており、値段もさることながら見た目にも満足感のある一品です。

博多と言えばラーメンの印象が強いですが、実は“うどん文化”も非常に深く、昔ながらの味を今に伝えるお店が数多く残っています。福岡・博多にはまだ魅力のあるものが沢山あるんだなと実感しています。是非こちらにお越しの際には博多うどんをご賞味くださいませ。

西日本営業所(部長:木下 敦裕)

インドネシアの人口の90%近くはイスラム教です。男の子は6歳ぐらいになると割礼をします。年を取ってからイスラム教徒になる時も割礼をすることもあります。最近イスラム教ではなくても健康のために割礼をする人もいます。インドネシアの習慣は民族によって違い、子供の割礼をお祝いする人もしない人もいます。通常、割礼の1~2日後に結婚式のように人々を招待して、子供にお祝いの言葉やプレゼントを贈ります。

自分はジャワ島とは違うスラウェシという島の民族で、ジャカルタから飛行機で2時間ぐらいです。割礼後のお祝いはやらないです。先週2つの招待状が自分の机の上に置いてあり、2つとも結婚式の招待状と思いましたが、1つは割礼のお祝いでした。割礼の招待状と結婚式の招待状は全く区別がつかないぐらい立派にデザインされています。結婚式はよく行っていますが、割礼の招待は1回か2回ぐらいです。やはり裕福な家庭だと、結婚式みたいに立派なお祝いをしています。子供がこれからの長い人生で、大人になって成功するように祈るのが、割礼お祝いの主な目的です。

KJI(インドネシア)(工場長: S.Akhyar)

~金色でピカピカ~

『周大福』。これ、大福もちのお店ではありません。実は中国最大の宝飾ブランドで、金やダイヤモンドを中心に7,000店以上を展開し、誰もが知るジュエリーショップです。中国でジュエリーショップに入ると金(ゴールド)のアクセサリーの多さに驚きます。店内にずらりと並ぶアクセサリーは金色でピカピカです。

中国文化において『金』は単なる貴金属にとどまらず、古代から富と権力の象徴であり、皇帝の衣装や宮殿の装飾には金色が多用されました。清廉な雰囲気銀に比べ、金は繁栄・吉祥・永続の象徴であり、人々の心を強く惹きつけてきました。今でも、子供の誕生祝いに小さな金のブレスレットやペンダントを贈る習慣が広く見られ、子供に金を持たせることは『一生の守り』になると信じられています。

ここ数年、中国では不動産価格が急落していますが、安全資産としての金が再評価され価格が高騰している側面もありますね。春節の飾りや贈答品には赤と金の組み合わせが定番で、赤は『喜び』、金は『富』の象徴です。私は銀の方が派手さがなく好きなのですが、まあ、おじさんの好みは関係ないですね。中国で金が好まれるのは、単なる嗜好ではなく、歴史・文化・生活習慣も深くかかわっているのですね。

KHE(中国・蘇州)(総経理: 山本 博史)

~夏の始まり~

いよいよ夏の始まりですね。早くも5月が終わろうとしています、皆さんは今年の夏、何か特別なプランはありますか？

私は今年、5年ぶりに実家のある沖縄へ帰る予定です。今回は私が一足先に日本へ入り、16歳の息子と沖縄で待ち合わせをします。息子にとっては初めての一人旅です。しかも国際線で、沖縄への直行便ではないため、一度東京で降り、入国審査と税関を通過してから沖縄行きの便へ乗り継ぐ必要があります。乗り継ぎ時間も少しタイトなので、無事に沖縄まで到着できるか親としては少し心配ですが、きっと彼にとって良い経験になると思っています。

今回の里帰りは、息子と二人だけの旅です。最近購入したInsta360 X5 (360度カメラ)を持って、息子と沖縄の海へ素潜りに行くのをとても楽しみにしています。昔はよくダイビングにも行っていました。沖縄の海の中は本当に宝石のようにきれいで、海の下から水面を見上げた時の景色はとても神秘的です。海の中にいると、その世界に包まれているような感覚があり、私は昔からとても好きでした。

子供と二人でこうして旅ができるのは、あとどれくらいあるのかなと思うと、この時間がとても貴重に感じます。今回の旅では、沖縄の海や景色と一緒に楽しみながら、息子との思い出をたくさん残したいと思っています。皆さんにとっても、今年の夏が楽しい思い出の多い季節になりますように。

KCS(アメリカ)(GM:Ayano Donnelly)

ポケモンは昔から人気があり、その人気は浮き沈みを繰り返してきました。おそらく株式市場のように、一部の人が『盛り上げる』ことで、最近また人気は再燃しているようです。

真偽は定かではありませんが、ソーシャルメディアで古いポケモンカードが高額で売買されているというニュースを目にしました。シンガポールでもポケモンブームが巻き起こっており、人々はカードを求めてポケモンセンターの前で何時間も並び、欲しいカードを手に入れようとしています。そして、購入したカードは元の価格の2倍、3倍もの高値で転売されるのです。

シンガポールのMRT(都市鉄道)会社でさえ、有効期限が切れていない人にも購入を促すため、ポケモンデザインのMRTカードを発売しました。私のカードがちょうど有効期限が切れたので、私も面白半分ポケモンデザインのMRTカードを買ってみました！

KIO(シンガポール)(E.Wong)

私は普段からチョコレートが大好きですが、オランダが世界のチョコレート貿易においてこれほど重要な役割を担っているとは知りませんでした。先月はイースターで、多くの人がチョコレートを買って食べる時期だったので、なおさら驚きました。イースターには、チョコレートの卵やウサギ、その他のお菓子を楽しむ人が多く、世界中でチョコレートがいかに人気であるかが分かります。

オランダはカカオとチョコレートの貿易において主要な国の1つです。最近では、ドイツを抜いて世界最大の輸出国となりました。最近とはいえ、オランダはこの分野で長年にわたり重要な役割を担ってきました。その理由の1つは、オランダの優れた輸送システムです。中でも特に、ロッテルダムとアムステルダムには大規模な港があります。アフリカ、南米、アジア諸国からカカオ豆が運び込まれます。到着後、カカオ豆は保管、加工されるか、ヨーロッパをはじめとする世界各国へ輸送されます。オランダはカカオ加工産業も盛んです。企業はココアパウダー、ココアバター、そして様々な種類のチョコレート製品を生産しています。多くの国際企業がオランダに工場を構えており、雇用と経済成長を支えています。

オランダが成功を収めているもう1つの理由は、国際貿易の拠点としての役割を果たしている点です。多くの商品が輸入され、その後再び輸出されます。その地理的な位置、輸送ネットワーク、そして長い貿易の歴史のおかげで、オランダは世界のチョコレート市場において非常に重要な役割を担うことができます。

KIO(オランダ)(Marvin de Laat)